

平成27年度第2回 屋久島世界遺産科学委員会の議論の整理

資料1 別紙

課題		主な意見	関係する機関	回答
第1回科学委員会の議事要旨	屋久島世界遺産地域管理計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年に1度は可能な部分だけでも管理計画を改訂すべき。また、それが遅れる場合には科学委員会や地域連絡会議で議論する体制が必要である。</li> <li>・モニタリング結果の反映では対応出来ない、登録地域の変更などの大きな検討ができる枠組みが必要である。</li> </ul>	4行政機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理計画の見直しについては、5年毎に見直しの検討を行うこととした。その後における臨時的な見直しについては、地域連絡会議で審議し、科学委員会の助言を頂きながら行いたい。</li> <li>・登録地域の変更などの大きな検討事項については、地域連絡会議で審議し、科学委員会で助言を頂いて検討することとなるが、町民や関係する団体等のいろんな意見を聞きながら慎重に対応する必要がある。</li> </ul>
平成27・28年度モニタリング調査	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングの結果を示すだけでなく、その結果をどう評価するかというものの原案を示していただき、それについて科学委員会で議論するようにしていただきたい。</li> </ul>	4行政機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後はモニタリング結果と併せて評価を示し、科学委員会に報告して参りたい。</li> </ul>
	登山道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道の荒廃について、対処療法ではなく、屋久島の登山道をどうするのか、統一した大きな目標を決めた上での全的、根本的な対策が必要である。</li> <li>・登山道の洗掘など、早急な対応が必要な段階になっている事項もある。本委員会で対策方法について検討していくべきだと思う。</li> <li>・登山利用による浸食は、人数の関係なのか、どのくらいの人が入ると、どのくらいのスピードでこれから壊れ続けるのかという予測を出したほうがよい。</li> <li>・登山道の荒廃問題については、分析と方針が提案された上で議論した方がよい。</li> <li>・山への利用が集中する一方で、全体の利用者は減少しており、里の観光資源の見せ方、屋久島の再価値化が重要になってくる。 (以下、技術的コメント) ・本分野に詳しい下川委員に助言をいただきながら洗掘されている登山道の土木の対策を考える必要がある。次回までにヒアリングして今後の方向性の提案していただきたい。</li> <li>(モニタリングに関して) ・山小屋のノートによる利用者数の調査は、続けることで経年変化が見られ、色々な情報も出てくる可能性もある。是非続けていただきたい。</li> </ul>	環境省 鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度より「山岳部の利用のあり方検討」を開催することとしており、登山利用のあり方については、その場で検討して参りたい。また、その中で登山道の整備・維持管理についても議論して参りたい。</li> <li>・歩道の洗掘などの対策に関しても「山岳部の利用のあり方検討」の場において議論して、科学委員会に報告して参りたい。</li> <li>・登山利用による浸食の原因や状況については、モニタリングが必要と考えられるため専門家の意見を聞き、必要となれば各関係機関と調整して実施することとしたい。</li> <li>・登山道の荒廃問題については、過去のモニタリング結果や新たなモニタリングの結果により分析し、地域連絡会議で方針を検討して参りたい。また、喫緊のものについては、その都度個別に定めることとし、専門家による土木の対策も含めて検討することとしたい。</li> <li>・観光資源の見せ方や島の再価値化については、各行政機関と島の関係者が一体となり検討していけるよう努力したい。</li> <li>・山小屋の利用者数把握については、平成28年夏まで継続して行い、1年間の利用状況を取りまとめて科学委員会に報告して参りたい。</li> </ul>

課題		主な意見	関係する機関	回答
平成27・28年度モニタリング調査	花之江河	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花之江河の乾燥化は自然のプロセスである部分もあり、それをなせ守るのかを検討しておくべきである。</li> <li>・花之江河の陸地化への対策について長く議論されてきているが、早急な対応が必要である。</li> <li>・花之江河の陸地化の原因について、報告書ではシカによる影響であると「考えられる」となっているが、そこで止まっていると次の対策が打てなくなってくる。</li> </ul>	林野庁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高層湿原花之江河は、古くから湿原が維持されており、それを保全し、後生に残すことが世界遺産地域を維持することに繋がることから、関係行政機関が一体となり保全すべきでことと考えている。その保全対応については、屋久島世界遺産地域連絡会議の中で検討し、科学委員会で助言を頂き対応して参りたい。</li> <li>・対策については、層湿原花之河の今後の推移について、その方向性を示し、何らかの対策を講じる時期にきていると考えているので、林野庁がこれまで行ったモニタリング調査において陸地化が進行している結果を踏まえ、今後関係機関や専門家の意見を聞きながら考え、科学委員会においても助言を頂き対応して参りたい。</li> <li>・ヤクシカ対策については、ヤクシカWGの中で検討して参りたい。</li> </ul>
世界遺産地域の適正な利用について	山岳部における利用の検討について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討成果は必要に応じて、ユネスコエコパークの管理計画にも反映させるべき。</li> <li>・外からの視点での計画作りも重要だが、島民が培ってきた、岳参り等の信仰や文化に基づくゾーニング的な感覚も重要である。</li> <li>・屋久島にも学ぶという視点があってもよい。単にゾーニングするだけでなく、こちらから周るともって屋久島を知ってもらえますよ、というルートを提示することができるよ。</li> <li>・観光客への情報提供や環境学習だけでなく、地元住民に対しても情報提供してほしい。専門家による専門的な講義ではなく、住民と密着した形での学習会があるとよい。屋久島の素晴らしい自然や文化があることを住民に理解してもらえる方法を検討する必要がある。</li> <li>・公園域の外についても考える枠組みを作っておいたほうがよい。</li> <li>・登山道のランク分けについて、検討を重ね、目的を明確にする必要がある。</li> <li>・し尿搬出の山岳モノレールについて、計画が進むのであれば適切な段階でここでも議題にすべきである。</li> <li>・次年度あり方検討会で検討し、科学委員会に検討結果の報告をされたい。</li> </ul>	環境省 鹿児島県 屋久島町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋久島・口永良部島ユネスコエコパークの管理計画を検討し、屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク地域推進協議会専門部会に検討結果を提供する。</li> <li>・信仰と文化に基づくゾーニングについては、今後の検討事項として留意したい。</li> <li>・山岳部の利用のあり方検討会において、屋久島を歩きながら学ぶという視点も考慮しながらゾーニングを検討したい。</li> <li>・地元への情報提供については、(公財)屋久島環境文化財団で、地元住民を対象にしたふるさとセミナーや自然に親しむ集い、屋久島研究講座などの学習会を開催している。また、毎月1回島内の全戸に「まるりん通信」を配布しており、財団の取組と連携できる方法を検討して参りたい。</li> <li>・公園外まで含める枠組みについては、検討して参りたい。</li> <li>・登山道のランク分けについては、山岳部の利用のあり方検討会において、目的を明確にしたランク分けを検討して参りたい。</li> <li>・当初予定していたルートでは、増水時等の対策が不十分であるためルートの再検討を行う。ルート設定で生じる課題及びその対策が整理された段階で科学委員会委員への情報提供を行うが、この件についての議論をあり方検討会で行うことまでは想定していない。</li> <li>・山岳部利用については、あり方検討会で検討して、検討状況について報告したい。</li> </ul>

課題	主な意見	関係する機関	回答
ヤクシカWGでの取組状況について	<p>・シャープシューティングの担い手は、島の外部に頼むのか、内部で育成するのか議論していくべきである。</p> <p>・(奥岳でのヤクシカ集中捕獲) 予算の問題もあると思うが、やるかどうかは別として、どういった形で手立てをしていくかの検討は、していくべきだと考える。</p> <p>・数千頭というシカを毎年獲っていることに対して、感情面での配慮をしながら捕獲していることが周囲に伝わると良いのではと考える。</p> <p>・屋久島のヤクシカを持続的に利活用しながら捕獲していく為には、地元の猟友会の育成も重要になってくる。</p>	林野庁 鹿児島県	<p>・シャープシューティングの実施については、技術者の育成や体制が必要なことから、島内での技術者の育成を進めるとともに、島外者の活用必要性についても検討して参りたい。</p> <p>・ヤクシカの頭数調整において、奥岳での捕獲は避けて通れない問題であり、その捕獲手法について、鹿児島県特定鳥獣保護管理検討委員会・ヤクシカWG・地元猟友会等において、引き続き協議していきながら、奥岳での捕獲の考え方については、別途「計画捕獲の検討の場」等で検討して参りたい。</p> <p>・捕獲にあたっての第3者が受ける感情面の配慮については、ヤクシカの捕獲が屋久島の生態系維持のために必要であることを関係機関のHP等を活用して周知し理解を得られるよう対応して参りたい。また、猟友会でも狩猟期には、安全と狩猟鳥獣に対する慰霊と感謝の気持ちも含め神事を行い狩猟を開始しているので、神事が行われたことも掲載しても良いかと考える。</p> <p>・ヤクシカの頭数調整においては、地元猟友会の協力が必要不可欠であり、林野庁では、シカ対策推進協定の締結によるワナ貸し出しなどを行っており、今後も猟友会の負担軽減に協力して参りたい。</p>
その他	<p>・モノレールの設置等景観に影響が大きいと考えられる議題について、早い段階で情報を出していただき、倫理的、科学的側面から早めに議論しておくべきである。</p> <p>・現状で火山灰の観測を中断するのは適正な判断。 再度噴火した際に速やかに観測を再開できる体制を確保していただきたい。</p> <p>・高塚山の荒廃について、シカの影響だけでなく、大気汚染など様々な原因が考えられる。正確な土壌分析を行った方が良い。</p> <p>・科学委員会の在り方、議論の仕方や議論する場を作っていただきたい。委員会の前に事前の意見出しを行うワーキング設置やその運営方法について検討したい。</p>	4行政機関 (個別案件は該当箇所)	<p>・世界遺産地域ばかりでなく、屋久島全体を考えて行くことは良いことなので情報として知らせることは必要と考えられる。世界遺産地域に影響が大きいと考えられる議題は、地域連絡会議で抽出し、早期に科学委員会で情報を出すこととする。</p> <p>・現在の観測体制について、担当者が交代しても引き続き観測ができるように、しっかりしたファイリングを残し、状況に変化があった場合には、直ぐに対策が取れるように引き継いでいくこととしたい。</p> <p>・高塚山の荒廃については、平成28年度のモニタリング調査において、シカが原因であるのか、否かを調査したいと考えている。その調査結果を得た上で、大気汚染・土壌分析等の方法も考えていくこととしたい。</p> <p>・科学委員会の在り方、議論の仕方については、現在、幹事会において、調整しているところであるが、全体的な見直し、科学委員会の在り方については、検討する時間が必要である。検討内容によっては、科学委員会座長にも参加して頂き助言を得ることも考えているので、その結果がまとまれば科学委員会において助言を頂きたい。</p>